

34 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(5) 家康と船橋(5)

—船橋御殿跡 附 東照宮—

29期 仲田 元昭

今回は船橋大神宮より徒歩 10 分程の旧市街の中心地にある、家康が東金からの鷹狩の帰りにご宿泊された、市指定文化財(史跡)の船橋御殿跡 附 東照宮をご案内します。

「船橋御殿跡」

鷹狩を好んだ徳川家康は、鷹狩に向かう道中各地に宿泊・休憩のために御殿を建てました。「家康と船橋」シリーズの本丸、ここ船橋御殿もその一つで、東金への鷹狩に向かう途上にある船橋に御殿が建設されました。建設時期は、慶長 19 年(1614)、家康が東金で鷹狩を行った頃と推定されています。

家康は元和元年(1615)11月25日に鷹狩の帰りに船橋御殿に宿泊したとの記録が残っています。二代將軍秀忠も鷹狩などの際に休憩や宿泊をしました。

御殿の敷地の広さは約 9,900 坪、船橋大神宮の倍の広さがあり、東が現在の海老川、南が御殿通り、北は船橋小学校に挟まれた一帯で、御殿の周囲は土手が築かれた施設であったことがわかります。



「船橋御殿地裁許絵図を模写に加筆」
(宝永4年(1707)西船橋図書館所蔵)



「東照宮 鳥居」



「東照宮 本殿」

「東照宮」

寛文 11 年(1671)東金にあった御殿が廃止されていることから、船橋御殿もこの頃に廃止されたと考えられています。

その後、御殿があった場所に、徳川家康を祀る東照宮が建立されました。現在の東照宮は、安政 4 年(1857)に再建され、昭和 2 年(1927)に修繕されたものです。

徳川家康と船橋の関係性を物語る貴重な史跡として、船橋市文化財に指定されています。

(参考図書: 船橋のあゆみ、船橋市教育委員会説明板他)「35 我が街 船橋を歩く 家康と船橋(6)」に続く「2023-10-1 寄稿」